

キレートイオン ハイパワー100

これは微生物群や植物を活性化させ、生物多様性のバランス効果をもたらします。

SDGsの目標14,目標15の2030年まで達成に、農林水産分野など実務現場から業種別最適使用環境

利用が期待される分野

1 土壌改良用(キレートイオン) ⇒ 地球環境部分での利用

土壌に関わる部分での利用でフルボ酸はすばらしい環境改善の基礎素材です。それだけに、間違いのない使い方をすべく、数年がかりで試行を行い、これからも継続してまいります。

(1) フルボ酸は、日本国の建築用積算根拠資料にも掲載されております。

その原液は日本国により、3.11で壊滅的な被害を被った海岸の防風林等の再生資材として、土壌改良や塩害回復用途として大量に使用されています。これらは、精製することなく原液を希釈して使用されています。土壌環境を回復させる目的で使用され、しかも希釈しての利用です。

(2) 水田や畑地、花き栽培現場での農地や山林等での土壌改良用

十分な試行による効果を確認してから、かつ段階的に利用範囲を拡大ください。

2 精製(キレートイオンハイパワー) ⇒ 生命環境管理部分

フルボ酸を生命環境への投入により微生物の活性化による効果に関心。数年間もの時間経過もありフルボ酸とはなにかを多様な個所に生息をする膨大な微生物群の活動成果が明らかになりました。同時に使用上での注意すべきことが多々あり、特に濃度管理が最も重要なことと分かりました。高濃度すぎると微生物群の死滅が起こりかねず、逆効果となります。微生物へのフルボ酸供与は、濃度を薄めて 薄めて正しく行う必要があります。現在ほぼ利用すべき方法等に関して実証技術が固まり、どのようなメカニズムか詳細に解析を行っています。

(1) 自然栽培が理想とされ、そのため完熟たい肥を大量に生成する必要がある農業現場向き

河川や畔等での雑草等の産業廃棄物等を大量に引き受けて集積し、フルボ酸処理による低温発酵機能なども利用頂いて、たい肥化を促進し、また海洋性ミネラル等の投入を含めて、完熟たい肥を大量に生成する仕組みを確立しました。

(2) 養豚の臭気防除、食物残渣の臭気防除などに

養豚や養鶏の現場で発生する臭気等に対して、精製済みフルボ酸を養豚用の飲用水を含む水タンクに投入することで、経過2ヶ月程度で、養豚場全域で消臭が進みます。家畜の健康維持にも有用となります。食品加工工場等や食品残渣処理廃棄物センター等で生じる食物残渣等の臭気問題にも有力な解決策となります。

(3) 水質浄化には、フルボ酸+火山礫のセット

内水面の湖沼や公園・庭園等の富栄養化した箇所、アオコ等による汚濁にも対応を提案できます。特に、湖沼や庭園灯で「池の水を抜く」対応後の回復期に撒布することで高い効果が期待できます。

(4) 市民の生活圏内での臭気防除にも活躍しています

フルボ酸は、生活の中でも、ガーデニングや家庭菜園、植木などの花木等での活性化や、多種多様な化粧品等に広く利用されています。特に今後、ペット等の体内微生物の活性化による健康促進効果も期待されています。



3 キレートイオンハイパワー100

効果的な利用法

フルボ酸+適用業務コンサルタンツ

フルボ酸のご利用先への訪問サポートを重視しています。ハイパーキレートイオンの使用経過を個別箇所ごとに相違する現場ごと確認をさせていただきます。勉強会もコンサルタントもお引き受けいたします。

生命管理技術環境を担う基礎素材

太古から、植物が倒れて固体化したものが石炭。液体化したものが石油。フルボ酸とは気体に近いものとされ、第3のエネルギー資源とまで言われています。いままで使用されてきた、他社フルボ酸は、1億年単位で経過し石化した環境から抽出したもので、特徴は死んで化石化し、酸素がほぼ消えているため、嫌気性細菌を活性化させる特徴があります。一部では構造式がわかり、結晶まで出来上がりました。

「キレートイオン」は違います。構造式は複雑すぎて確定できません。日本では国内の生きている植物の「木酢」から濃密なフルボ酸原液として抽出濃縮されて製造されています(製法許)。この原液は日本国内全域で空気中などに浮遊しているフルボ酸の濃度の4,000倍以上とされています。

「キレートイオン」として抽出されるまでには最大でも2年程度で作成されされています。生きている植物から抽出されます結果から、酸素を大量に含み、特に好気性の微生物や植物を活性化させます。特に動物性プランクトンを活性化させますので、アオコ等の汚濁を、動物性のプランクトンが大量に発生して、アオコ群を生命多様性のバランス効果で抑え込んでくれています。そのほか多様な利用価値開発が急務となっています。同じフルボ酸でも、これは1億年も前のフルボ酸原液ではなく、生きた植物から採取されています。植物や微生物が生育するために必要な元素を、土壌中からイオンとして取り込める仕組みを、場所を限定することなく微生物や植物に与えてくれます。

※ 特定地域に「外来種」としての微生物群を組み込み等で、投入する手法は、生物多様性上でのバランス効果に、外来種持ち込みのリスクを生じる可能性と、種としての持続性にも生物学的な問題もあります ⇒ 多くの他メーカー提供者の立場です

※ もともと「キレートイオン」は生物ではありません。関与したその箇所の膨大な微生物群に「生物多様性」のバランス効果をもたらす、その場所であるがままに任せられます。

⇒ 特にキレートイオンハイパワーは格段の配慮を行っています。

※ フルボ酸の原液を1として、土壌など地球環境への直接投入下への希釈濃度は塩害箇所「五百倍」以上、水田裸地や畑の土壌等で「1万倍」以上とされています。

※ フルボ酸の原液を1として、生命環境上で微生物や植物等を活性化させるの濃度は「百万倍」以上です。特に植生への直接的な葉面散布は「二百万~五百万倍以上」が推奨です。

製造会社 株式会社日本ソフケン

開発・販売・コンサルテーション会社

株式会社トータルメディア研究所 地域創生事業部

113-0021 東京都文京区本駒込4-38-1-207 富士ビル

電話 03-3824-6071 FAX 03-3824-6071

HP <http://www.tml.co.jp> web : info@tml.co.jp